

活性汚泥法(かっせいおでいほう) | Activated sludge process

生物学的特性を応用した効率的廃水処理技術の一種。有機物で汚染された廃液中に先ず空気を吹き込み、その酸素の作用で微生物を繁殖させると、その効果によって吸着性に富む汚泥のフロックが形成され、フロックが沈降して、上澄みとして透明な処理液が得られるという方法である。先ず、廃液中に空気を吹き込んで、活性汚泥をつくり、それを廃水と十分混合させて、汚泥を沈降分離して廃液を浄化する。その後、汚泥は再び元に戻して、汚泥処理に再利用することが出来る。この方法は、主に汚水の処理の内、生化学的酸素要求量の大きい汚水の処理に有効であり、例えば食品加工工業の廃水のように有機物を多く含む廃水の処理に効果的に使用される。

(古澤)